



CHAIRMAN'S STATEMENT 2014



これは昨年10月に私がDino Caroussis氏の後を受け、理事長に就任して以来、初めての声明となりますが、まず同氏の当クラブへの大きな貢献に対して理事会とクラブを代表して、心より感謝を申し上げます。

Caroussis氏が理事長に就任した時はクラブとメンバーにとって非常に大変な時代でした。彼の就任中、クラブは船主が主体的に管理する第一級のP&I 保険プロバイダーになるという目標に大きく近づきました。ここに発表する堅調な業績結果は過去5年間における同氏のリーダーシップが寄与していることを立証しています。

堅調な業績

今期、当クラブは自由準備金および資本を3,400万ドル増額することができました。その結果、クラブの自由準備金は4億3000万ドルとなり9800万ドルのハイブリッド資本をあわせ総資本は過去最高の5億2800万ドルとなりました。この業績は2013保険年度のクレーム費用が増加したにもかかわらず、保険引受けが健全な成果をあげたことと、投資利率が4.5% (4400万ドル) に達したことが反映されています。

会計年度コンバインド・レシオは102%で、クラブの目標である100%に近い数字を4年連続で維持したことになります。「Review of the Year」で述べておりますが、このコンバインド・レシオは、過去の保険年度、特に2011年度と2012年度のクレームが大幅に減少したことによります。このように減少したのはいくつかの大型海難クレームが予想以上に良い結果となったことが後押しとなりました。それ以前の保険年度が改善したことも重なり、クラブは健全な支払備金を維持しつつ、クレーム支払の予測額を大幅に減額することができました。ただし過信は禁物です。今期の結果は2013年度に発生した高額クレームで相殺され、上半期末の時点で過去最高のレベルに達するものと思われました。これは下半期には減少したものの、2013年度の最終支払予想保険金は、海運業が活発化しクレーム・エクスポージャーの絶頂期となった2007年以来最高となり、過去5年間の平均を25%上回っています。今期の業績全体は好成績であるものの、疑いもなくインフレ傾向を示しているP&I クレームに対応するためにクラブの保険料を調整していく必要があります。

スタンダード&プアーズ

喜ばしいことに、クラブの資本と保険引受の規律が業界のトップレベルに戻ったことがスタンダード&プアーズに認められ、クラブはA (安定的) の格付けを取り戻しました。これはクラブにとって大変重要な出来事ですが、それ自体が目的ではありません。クラブは財務力を取り戻した後、最高のサービスに対す

る評判を維持することに同様の努力を払う必要があります。そのために、クラブはサービス提供のあらゆる局面を綿密に検討し、世界中の事務所のスキルを適正に配置し、船主や用船者が現在直面する要件を満たすために、メンバーが必要とする保険商品を確保していく所存です。

資本

本年度の「Review of the Year」は初めて資本に関するセクションを設けました。同セクションはクラブの抱えるリスクに対応するための資本の測定方法を説明しています。自由準備金とハイブリッド資本を組み合わせることによってクラブが保有する資本の現在のレベルはソルベンシーII指令による規制要件を満たすことができます。理事会は、特にすべての船主が直面する現在の事業状況において、クラブが過度な金額の資本を保有すべきでないことを認識し、強い資本基盤と競争力の維持の間に適正なバランスを保つ必要性を認識しています。クラブは2012年に、2011保険年度保険料を減額することができました。状況が許せば、特に保険引受の業績が好調な年があった場合には、将来再びこのような減額ができるのではないかと思います。

好調な保険更改

堅調な実績に支えられたクラブへの市場の信頼により、保険更改は良好な結果となりました。加入トン数の変動と加入条件の変更、さらに再保険コストの増加を考慮した結果、保険料の引き上げは7%となりました。また、加入総トン数は健全に増加し、現在1億2,400万総トンに達していますが、2014年中に引き渡される予定の新造船400万総トンの加入についてのコミットメントも取り付けています。保険料の引上げと加入トン数の増加は、適正な保険料率で管理された成長というクラブの公約を示しています。2013年はクラブの用船者契約も好調な年で、そのトン数は現在8,000万総トンを超え、5,000万ドル以上の保険料を生み出しています。

リスク管理と再保険

クラブ独自の再保険プログラムは過去2年間にわたるクレームの変動を管理する上で重要な役割を果たしました。この再保険は2012、2013保険年度のプール・クレームとクラブ自身の大型クレームのインパクトを軽減し、今期のクラブの業績全体に大きく寄与しました。喜ばしいことに、2013年中にクラブは有利な条件でクラブ独自の再保険を更改することができました。これによりクラブはクレームの発生件数と金額の急増から大いに身を守ることができます。私の前任者が昨年語ったように、クラブ独自の再保険プログラムは健全な保険引受の代わりとはなり得ませんが、クレームの急増のインパクトからクラブを保護します。

リスク管理は再保険に限定されません。UKクラブはP&I業界で最も包括的なロス・プリベンション（損害防止）プログラムを採用しています。同プログラムはパンフレットの作成から、特別に開発された手法による詳しいリスク評価システムに至るまで、広範囲にわたります。昨年、UKクラブのウェブサイトは更新され、数々の最新情報を含むロス・プリベンションのセクションは大幅に改善されました。

規制

昨年、ソルベンシーII指令の定める要件に応じるためにクラブが取った措置について理事長から報告がありました。こうした措置には、クラブの内部モデルの開発とグループの組織再編が含まれます。UK（ヨーロッパ）クラブは2013年2月20日に、アジアの各支店を除くUKクラブのメンバーの主要保険プロバイダーとなりました。UK（ヨーロッパ）クラブの新支店は2013年度中に、香港、日本、シンガポールで免許を取得し、2014年に各支店において事業譲渡が行われた後、組織再編は完了する予定です。

業界の諸問題

「Review of the Year」には、理事会が昨年取り組んだ業界の主な問題の背景が記載されています。こうした問題は、2013年8月に発効した海上労働条約（MLC: Maritime Labour Convention）、EUおよび米国によるイランへの経済制裁拡張のインパクト、そして最近では、米国の港を使用する船舶が賠償資力責任確認書（COFR）の取得に必要な保証書を、米国コーストガードに直接発行する計画を国際グループのクラブが考案したという報道を含んでいます。このイニシアティブは国際条約を支持し、一国家による賠償資力責任を事前に保証する要求に応じないという国際グループ・クラブの既定の方針に反するものです。理事会は、複数の新しい賠償資力責任の保証義務を船主に強要すべきではないことを国家および地域レベルでうまく議論してきており、現状を維持すべきだと考えています。

ガバナンス

昨年行われたガバナンス構造の変更はうまく機能しています。UK（ヨーロッパ）理事会は7回、UK（バミューダ）理事会は3回会合を開きました。この機会を借りて、理事の皆さん、特にクラブの主要委員会のメンバーとしてクラブの問題に時間を割いていただいた方々に、お礼を申し上げます。特に、Eric André氏、Ottmar Gast氏、Nicholas Inglessis氏 および 諸岡正道氏の副理事長としてのご支援と、監査委員会の委員長を務めたNigel Smith 氏に厚くお礼を申し上げます。5年間の任期を終え、退任されたDino Caroussis前理事長に加えて、4名の理事（Philip Louis-Dreyfus氏、Agenor Junqueira氏、Jin Bang Lee氏および Adamantios Lemos氏）が退任されました。彼らのクラブへの貴重な貢献に心より感謝を申し上げます。

また、2013年に就任した7名の新しい理事の方々（Sheikh Talal K. Al-Ahmad Al-Sabah氏、Angela Chao氏、Michael Fostropoulos氏、Polys Hajioannou氏、Edouard Louis-Dreyfus氏、Paul Wogan氏および Riad Zein 氏）を歓迎するとともに、今後のご活躍を期待しております。

結び

好転期にUK クラブの理事長役に就任させていただいたことを大変光栄に思います。過去5年間にわたり、クラブは資本基盤を再建し、保険引受に規律を導入し、サービス計画を改善することができました。クラブは船主が主体的に管理する第一級のP&Iクラブになるという目標に大きく近づきました。今後5年間理事会およびクラブ管理者と協力し合い、この目標を達成することに全力で取り組んで参りたいと思います。

Alan Olivier
理事長

